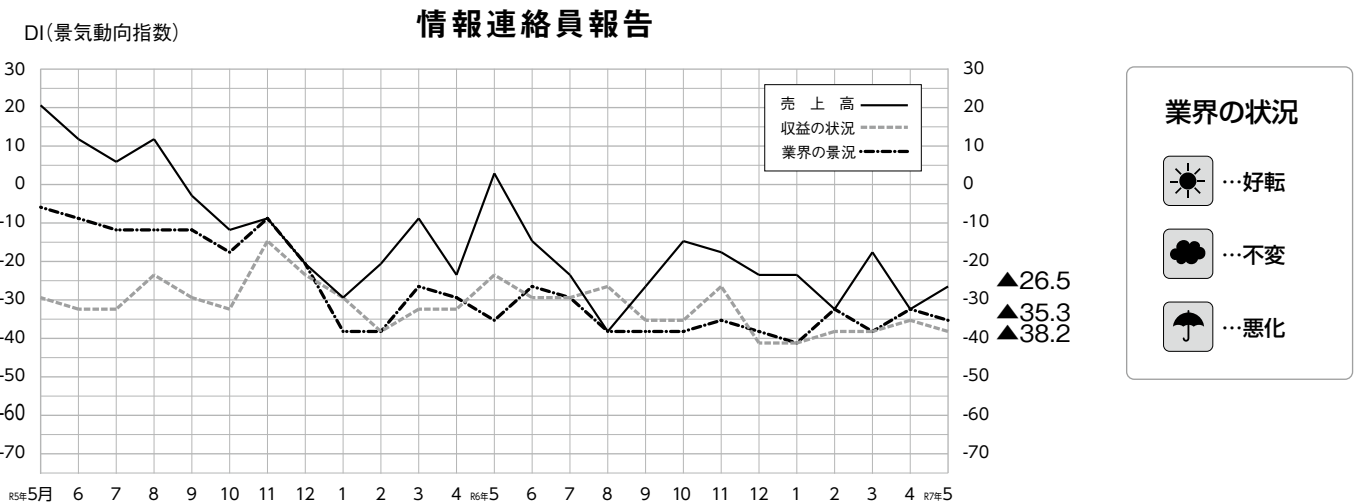




☀	電気機械器具小売	5月度は全商品平均で前年比108%。省エネタイプエアコン前年比103%、4K・8Kテレビは前年比96%、リフォーム関連商品が前年比113%であった。
---	----------	--

☁	食品団地	5月度商況は、県内外共に上昇基調。経営環境には厳しいものがある。特にコスト上昇が収益の圧迫要因となり、収益低下が続く予想。
	テントシート	原材料の高騰分の販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。前述のような状況の中、6月より一部の製品の値上げがあり、厳しい状況である。
	木製品素材生産	5月期の出材量は先月並みで、ほぼ横ばいとなっている。丸太価格についても前月と変わらず、製材品の動きが鈍い状況であり、価格は弱含みで推移している状況。今後の出材量は梅雨入りとなってくることから若干減少となってくるとと思われる。また、価格も大きな変動は見込めない。梅雨入りとなり、一部地域では虫害の発生もみられる。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体の販売金額及び販売量は、昨年同月比で上回った。特に、衛生用紙のトイレトペーパーおよび工業用雑種紙は、先月と同様に販売金額・販売量ともに好調に推移している。しかし、紙製品全体の生産量が、前年同月比で下回っている。
	製紙(手すき和紙)	今月は前年と比較してほぼ横ばいの状況だった。厳しい状況が続いている。5月決算のところもあり少し動きが鈍くなっている。
	生コンクリート製造	5月度の全組合員の出荷量は、対前年比79.1%と低調であった。年度明け以降の公共工事の減少が要因と考えられる。地域的には中央地区と高幡地区が微増しているが、その他の地区は対前年比60～80%程度で減少している。
	コンクリート製品	対前年同月比63.8%。昨年度からかなりの減少となったが、予算規模は昨年と同じ程度であるため、今後は昨年度と同様に推移すると考えている。
	刃物製造	今月の売上は大幅に減少した。原因として受注残はあるものの、仕上がりと、出荷のタイミングが合わず、また、付属品の入荷が遅れ来月の持ち越しが出てしまった。
	機械団地	需要が伸び悩む中で、原材料や電気代、労務費などのコスト増が続き、中小零細企業の収益状況は低迷している。その中には、新製品の開発や新たな販路の開拓に注力し、現状を打破したいということもある。
	船舶製造	中途採用者が1名入社した。仕事量は高操業で推移している。
	珊瑚装飾品製造	5月度の取引額は、前年同月比103%と前年を上回る結果となった。
	生鮮魚介卸売	5月もカツオは順調に入荷した。取引額は減少しているが、数量は前年と比べてあまり変化はない。あとはマグロが入荷してくれば、カツオ・マグロに期待している。
	中古自動車小売	オークション流通量が減少傾向にあり、伴って相場も上昇傾向なので、展示車両の仕入れに苦戦している。販売面では、先月同様に来店数、問い合わせ件数が前年同月と比べ増加している。
	商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の96.5%(1,037台減)、料金収入は前年の102.2%(208千円増)。ゴールデンウィーク期間中に開催された「こうち春花祭り2025」は、3日間とも天候に恵まれ、多くの来街者で賑わった。5月のクルーズ船の入港は12隻となり(前年4隻)、入港日は午前中から多くの外国人観光客が商店街を訪れ、賑わいを見た。この影響もあり、免税売上は月間ペースでコロナ以降最高額を記録した。

☔	商店街(四万十市)	総会シーズンであった。会終わりに「ぜひ2次会、3次会へと行っていていただき、栄町にも四万十市にも貢献してお帰りください。」と言葉を添えてきている。役員改選の年だが、ほとんどの商店街で同じ役員がそのまま頑張る予定だ。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比103%、全旅クーポン合算後前年同月対比124%。売上回復の傾向が緩やかに進んでいると判断している。現時点では慎重に推移を見守っている。
	IT事業	今月の売上は、前年同月比で8.5%の減少となり、3カ月連続で前年実績を下回る結果となった。依然として厳しい状況が続いているが、共同受注事業においては、大型案件の引き合いも徐々に見られつつあり、今後の動向に期待したい。また、先月より組合員間の交流促進を目的として、新たなコミュニケーションツールを導入した。今後も座談会等を中心とした組合員同士のつながりを強化し、組合全体としての新規顧客開拓や潜在需要の掘り起こしに注力していきたい。
	一般土木建築工事	労務単価の情報により、収益はあまり上がらなくなっている。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比115%となった。高知中央地区が133%、香長地区が115%となったものの、須崎地区が14%と大幅に減少した。
	タクシー	実働1日1車当たりの前年同月比運送収入:102.3%、輸送回数:105%、実働率:51.2%。高知市の支援で始まった配車アプリを使っていたいただいたお客様から、いろいろ注文や指摘もあるが、順調に機能し、便利に使っていただくことを期待している。通常総会も終わり、新しい年度の始まりである。

☔	酒類製造	価格改定で売上高はやや上昇。出荷量はほぼ前年並みである。原料米の確保が心配される。
	製材	引き合いは低調であることに加え、他県企業の進出もあり状況は厳しい。
	建具	個人住宅・公共工事共に少なかった。建具材料代の値上げが続いており、6月からメラミン化粧板の値上げも決定していて、先行きが不安である。
	印刷	当月の操業度は大幅に低下。県内需要は全般に低調、県外需要は一部好調な業種もあるが大部分で落ち込んだ。今後夏場に向けて不安感が漂う。
	卸団地	観光業界は好調であったようだが、外食業界が同様であるとはいえない状況。県内もインバウンド客が増加傾向にあるが、まだまだ少なく、外食にお金を使う客が少ないと思う。仕入れ品・ガソリン代等値上げが続くものの、販売価に十分転嫁できていない。
	青果卸売	5月の取扱高は組合員全体で前年対比87.5%となった。野菜の入荷量は前年並みだが、単価は大幅に下がった。果物は入荷量、単価ともに下がり、GW需要も思うほど伸びなかったことが主な原因。今年の1月から5月の累計でも前年比97.2%となりかなり厳しい状況。
	各種小売(四万十町)	物価高騰も続いており、地域の小売商店にとって依然厳しい状況が続いている。当会はポイント発行事業を行っている。昨年から本年にかけて発行ポイントは減少しているものの、利用者の利用率は横ばいである。一定の常連顧客による購買活動は持続しているものの、新規で顧客が増えていく状況ではないと推察する。地域内消費を促していきたいところではあるが、決定的な策はないため小規模な取り組みを継続して展開していく必要性を感じている。
	ガソリンスタンド	5月末現在の新補助額は8.4円となり政府の補助金限度額の10円に残り1.6円となっている。補助額は仕切り価格により予定より早く上がっており、それに加えて仕切り価格までが下落し高知県の市況は大幅な下落となっている。確かに戦争により原油価格は不安定であるが、異常な下がり方であり、価格競争(乱売)が起きるのではないかと心配する声も聞かれる。
	商店街(安芸市)	物価高が続き、消費者の購買意欲の低下を感じる。そんな中、商店街の一角に駄菓子屋がオープンして約1カ月が経過。子どもからお年寄りまで幅広い年代の方が買い物に訪れ、子どもの声や大人たちの会話などが商店街に響き渡りささやかな賑わいがある。
	旅館・ホテル	GWの宿泊需要が予想以上に低かった。5月3～5日にかけては例年通りであったが、それ以外の日はいずれも低需要であり、販売に苦戦した。6月以降の見通しも昨年を下回る可能性が大きい。
	飲食店	高知市中心部や観光、レジャー等に関わる飲食店に限って言えば集客は好調だったが、県の東、西部の集客は悪い。全体としてはコロナ禍以前の売上比較で約8～9割。物価高により県内消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。前年度同月に比べ更に物価は高騰。光熱費・仕入れ価格・人件費・ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	衣類のカジュアル化が一層進んでいるのか、繁忙期の需要が長続きせず、点数減の傾向が続いている。資材価格やエネルギー価格は依然上昇傾向にあり、収益状況も二極化している。苦戦している店舗が目立ち、事業多角化や、品目の追加を検討しているところも多い。
	一般貨物自動車運送	燃料価格がトランプ政権の影響と新しい政府補助金とともに下落傾向となった。荷動きが活発とはいえない中での値下げは歓迎するところではあるが、まだまだ高値であることには変わりなく、組合員企業はまだ厳しい経営を強いられている。